

シリーズ 河川公園

福井市天池河川公園
(九頭竜川)

Let's enjoy! スポーツ!



九頭竜川右岸・天池橋上流部に位置し、福井駅より車で約20分。サッカー・テニス・ソフトボール・グラウンドゴルフなどスポーツ施設が充実しています。総面積は88,000㎡と東京ドームの約2倍！リピーターも多く、年間約1万人の利用があります。近年の健康ブームとあいまって、1,500mのジョギングコースも利用者数が増えています。

河川公園の醍醐味でもある解放感の中で、思いっきりスポーツを楽しみましょう！

- 開園期間… 4月1日～11月30日（冬期間は閉鎖）
- 開園時間… 9～17時（バーベキュー場は15時まで）
- 休 園 日… 木曜日 ※雨天日は使用不可
- 利用料金… 無料
- 駐 車 場… 185台
- 使用方法… 管理事務所で申込み受付けをしています
電話予約も可能
- 電話番号… 0776-56-3208（受付時間：11～12時、13～14時）

お願い

増水・洪水に注意し、安全に楽しんでください。
また、バーベキュー場では、タバコなど火気に注意し、炭やゴミは持ち帰ってくださいね。

シリーズ KAWA活動

旭青少年育成会・旭公民館

4半世紀続く荒川水質調査



かつては泳いだり魚をとったりしたという荒川の話を経験した子どもたちが、「なぜ今はできないの？」と思ったことがきっかけとなり、平成元年、旭地区の『手寄子ども会』の活動から水質調査は始まりました。当時の子ども会会長が環境のエキスパートであったことから、水準の高い調査内容でスタート。現在は、旭青少年育成会と旭公民館が主体となり、保護者や先生、交通隊、環境アドバイザーなどたくさんの方の協力を得て行っています。流速計や水深計など調査器具も手作り。毎年、旭小学校の5・6年生が、ポイントごとに自転車移動しながら調査を行い、『上流はきれい、下流は汚れている』という結果や、『過去の調査と比較して少しではあるが改善されている』ことを学習しています。



調査の後には、自由に川遊び。最初は気持ち悪かったヒルなども喜んで見つけるようになる。学校の横を流れる川に関心をもち、川を身近に感じる行事として、これからも活動の歴史は続いていくようです。



調査範囲… 荒川上流・上古野から城東橋まで約15キロ

調査項目… 川幅 透明度・水質 水素イオン濃度(pH) 流速 水深・水温
化学的酸素消費量(COD) 亜硝酸態窒素(NO₂) 天候・気温・外観

調査地点… 橋を基準に8か所

編集 NPO法人 ドラゴンリバー交流会

〒918-8031 福井市種池2丁目305（福井市治水記念館内）
TEL&FAX 0776-33-1850
http://www.dragon.or.jp Email:info@dragon.or.jp

発行・お問い合わせ先

福井県河川課

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号9階
TEL 0776-20-0481 FAX 0776-20-0696
http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kasen/index.html Email:kasennka@pref.fukui.lg.jp

かわらばんふくい

第9号 2016.3 発行

川からはじまる地域づくり ～ 福井市東郷・美山地区 ～



川を渡る乗り物
川と過ごす、おとな時間

写真 毛矢の繰舟

川からはじまる地域づくり

川は昔から人々の暮らしと深く関わっていました。近年は、その関わりも薄くなり、河原に出かける機会も少なくなってきましたが、地元の川を大切に思い、ふれあいの場として地域づくりに活かしている地区があります。

東郷地区

歴史と人と自然が調和する親水空間

せせらぎコンサート，川床LIVE at 堂田川（東郷ふるさとおこし協議会）



堂田川は、東郷のまちなみを流れる徳光下江用水路で、古くから生活用水として利用されていました。江戸時代には宿場町としての賑わいもあり、昭和45年ごろには染物を洗う光景もみられました。平成10年に用水路改修を経て水に親しむ水路が完成。14の橋が連なる風情のある空間に生まれ変わり「せせらぎ」を感じる水路となっています。

みつけてね！

カッパ現る！

大人から子どもまで水の妖怪として馴染みの深いカッパ。水を大切にしたいという願いを込めて作られました。14の橋のどこかにいます。



東郷ふるさとおこし協議会は、東郷地区の19自治会からなり「決めたことは知恵を絞ってやり抜く」という信念のもと、毎年6月に『せせらぎコンサート』を開催しています。平成27年には、通水式のあった10月10日に合わせて同日時に『川床ライブ』を企画。運営には、初めて地区外のグループも参加し「ふくい若者チャレンジクラブ」が川床レストランをオープンしました。景観豊かなまちなみともマッチし、来場者には「川のある雰囲気が素敵」と大好評。客層の幅も広がりました。客層の幅も広がりが「今後は、1週間ほどの期間でレストランやカフェを営業したい」（平本会長）と夢も膨らみました。



CDも作りました！

東郷と堂田川の魅力を織り交ぜて、福井県立大学出身の女性デュオ「ナナイロ」が曲を手掛けました。

美山地区

山里の川と森がうみだす自然の楽園

ふるさとをこよなく愛する高嶋正夫さんは「イベントをすると地域がまとまり、地域活性化につながる」と地区内を奔走し、森づくりや川遊びなど美山地区のイベントを陰で支えています。

下味見ふれあいまつり

（赤谷川：ふれあいまつり実行委員会）

プールの普及で川に入る機会が減ったことを危惧した高嶋さんら地元住民の呼掛けで、福井豪雨後の復旧工事の際に、川に降りる階段を要望。親子参加をキーワードに魚のつかみどりを提案しました。帰省中の子どもたちにも参加してほしいと、毎年お盆に開催。親戚同士や顔馴染みの人たちが集まり、アットホームな雰囲気です。



赤谷豆知識

その1 平維盛（平清盛の孫）が、源氏との戦いに敗れた後、安住の地として身を置いた村とされ、今も平家の末裔の方が暮らしています。

その2 明治23年に赤谷鉱山が開鉱。金米糖状自然砒素の産地として、鉱物コレクターの間では有名とか。

苦労よりも、
天気が一番心配です

高嶋正夫さん

美山ふれあいまつり

（足羽川：ふれあいまつり実行委員会）

定番の鮎つかみをメインに、河原に生えているイタドリ草の茎と葉っぱを使った笛作りなども行い、自然に親しんでいます。今後は、石の形や種類・色などを調べ、専門家と一緒に石の勉強会や化石発掘なども思案中とのこと。足羽川流域では、動物や植物の化石も多く見つかり、日本では初めてといわれる1億5千万年前の爬虫類の化石も発見されています。



自然の中で遊ぼうin芦見

（芦見川：青少年育成福井市民会議美山支部・福井市教育委員会）



自然に恵まれた利点を生かし、廃校になった山里の小学校を遊び場として有効活用しようと、平成27年に初めて開催。水生生物の観察や鮎の生態観察などを行い、芦見川の川と自然を満喫しました。芦見川に久しぶりに子どもたちの声が響き、地域の人たちにとっても昔を懐かしむ光景だったようです。川に隣接した田んぼではソバを育て、ソバ打ちも体験。参加者からは「体験しながら学べる良い企画でした」という感想が多く寄せられました。



平成12年度に廃校となった旧芦見小学校。円形を連ねたモダンなデザインの校舎。



川マップ

川を渡る乗り物の話題

毛矢の縁舟（足羽川九十九橋上流舟着場：福井県）

時代を超えて蘇る、ロマン航行

その昔、毛矢町に住む武士たちが川を渡る手段として利用していた縁舟を足羽川の新たな風物詩にしようと、木製の和舟で再現し、平成27年8～10月の3ヶ月間、主に日曜日に運航しました。川に張った綱を船頭が手繰り寄せて舟を進め、同時に思いをはせながら渡る往復5分ほどの舟旅。10月には夜間航行も行い、川面を照らす灯りが幻想的な雰囲気を醸し出しました。『福井市史』によると、当時は、武士や医師などが使用を認められており、旅人や庶民は乗船が禁じられていたようですが、平成の運航では、誰でも乗船可能。たくさんの方が時代を超えた舟旅を楽しみました。



九頭龍ドラゴンボート大会

（九頭竜川高屋橋：河合九頭龍ドラゴンボート大会実行委員会）

九頭竜川に、龍神の風が吹く！

「かつては、泳いだり、魚を捕ったり、流木を薪として使ったりと、川が生活の一部で住民の繋がりが強かった。もう一度、みんなが熱くなる祭りで地域を盛り上げたかった」（吉村実行委員長）と、河合地区の地域おこしとして発案された大会。ドラゴンボートは、中国に由来する幅が狭くて長い舟のことで、龍の頭と尾で装飾されていて、太鼓を打ち鳴らして漕ぎ進むのが特徴です。九頭竜川にちなんだ名前に「これしかない！」と、平成20年から毎年8月の第一日曜日に開催しています。片道250mで速さを競い、チームの結束力・連帯感が魅力とのこと。毎年20近いチームが参加し、九頭竜川の大きな自然に抱かれ、暑い夏に熱い戦いを繰り広げています。



川と過ごす、おとな時間

川 TERRACE（足羽川幸橋：日野川流域交流会）

川のせせらぎと夜風がおつまみ

水辺の魅力をまちづくりに生かそうと、平成27年11月、期間限定で足羽川にミズベリング・バー「川TERRACE」がオープンしました。即席のバーカウンターとデッキチェア付きテーブルが用意され、集まった人たちは、レトロな和風のデザインのガス灯が並ぶ石畳の堤防でワインを堪能。期間中は、本格ソムリエも登場し、ボジョレ・ヌーボの解禁や二胡の演奏もあり、川面に映る夜景に浸りながらお酒とおしゃべりに酔いしれました。

誰もが気軽に立ち寄れる水辺バーとして定着を臨む同会の田中幹事は「今後は、地域や大学生、経営者の人たちと共同して、月1回の営業を考えたい」と話しています。ワイングラス片手のおしゃれな夜が定期的に楽しめたらいいですね。



歴史まち歩き（足羽川桜橋～幸橋：（公財）福井観光コンベンションビューロー）

福井の偉人を訪ねて歩く

米国人教師ウィリアム・E・グリフィスが暮らした洋風住宅の外観を復元した福井市グリフィス記念館が、平成27年10月に開館しました。同記念館のオープンに伴い、足羽川周辺のまち歩きが楽しみになりました。桜橋から幸橋間にかけては、日下部太郎・グリフィス像や由利公正像などが建ち、幕末から明治維新に活躍した偉人の足跡を辿ることができます。また、古くから茶屋町として賑わい、老舗料亭が軒を連ねる浜町界隈の小路歩きも魅力的です。



150年ほど前に生きた彼らの想いや功績を知り、古き時代に思いを寄せるとともに、見逃しがちなまちの魅力を再発見してみてください。

足羽川ぼんぼり物語

（足羽川幸橋～九十九橋：足羽川ぼんぼり物語実行委員会）

ぼんぼりの灯りが、春を彩る

足羽川堤防をぼんぼりで灯すイベントが、平成27年、6年ぶりに復活。満開の桜並木を楽しんでもらい、たくさんの人を足羽川に呼び込みたいと、京都の川床をヒントに「さくら床」を設けました。ぼんぼりは、光陽中学校の生徒たちが独楽吟ぼんぼりを制作。夜は、かがり火を焚いてミニコンサートを開催し、訪れた人たちは昼夜をとおり河原の桜と風情を満喫しました。



語り部の案内で歩くのもいいですよ

ガイド申込み等の詳細は【歴naviふくい】で検索して「ボランティアガイド」をご覧ください。

